

熊本地震からの創造的復興への「軌跡」

～全国のNN技術職員の皆様へ 感謝の気持ちを込めて～

【目次】

- 復旧・復興トピックス（平成30年度第2・3四半期）
- 派遣職員からのたより
- 熊本地震等の農地等災害復旧事業の進捗状況
- 広報・広聴活動

第7号 平成30年12月28日発行



復旧・復興トピックス（平成30年度第2・3四半期）

9月28日（金曜日）

災害復旧の現場から絶滅危惧種「ヒラモ」を移植する「モガワ大作戦」を実施

絶滅危惧種の水草「ヒラモ」が群生する上益城郡益城町砥川の藻川（モガワ）水路で、熊本地震に伴う護岸復旧工事の施工を前にヒラモ約2万株を上流に移す「モガワ大作戦」を実施しました。

藻川水路は、熊本地震で護岸の矢板がずれる等の被害が発生し、約1 kmにわたり護岸復旧工事を行うこととなりました。

今回、護岸工事により、ヒラモが取り除かれたり、枯れたりする恐れがあるため、県希少野生動物植物検討委員会と対応を相談し、藻川水路の上流域に移植することを決定しました。

当日は、県・町職員や、土地改良区の職員ら約80人が参加し、採取したヒラモを約400個の移植床にくくりつけた後、工事が行われない上流域3箇所にトラックで運び、丁寧に沈めて固定しました。

© 2011大阪府立環境農林水産総合研究所



（ヒラモ）



（護岸の被災状況）



（絶滅危惧種ヒラモを移植する「くまもと水土里ネット女性の会」ら）

11月21日（水曜日）

乙ヶ瀬地区で農地復旧に向けた工事の安全祈願祭が開催

熊本地震で大規模な土砂崩れがあった阿蘇郡南阿蘇村乙ヶ瀬地区で復旧工事の安全祈願祭が開催されました。

棚田が広がる乙ヶ瀬地区では、計22.8haで主に稲作が営まれてきましたが、熊本地震による土砂崩れで農地約4haが土砂に埋まり、ため池からの導水路も寸断される等、壊滅的な被害を受けました。

今回、「創造的復興※」の一環として、県営中山間地域総合整備事業を活用し、被災農地約4haを含む約18ha（受益農家30戸）において基盤整備を行い、平成31年にも整備を終えた田畑で順次作付けを始め、平成33年度（2021年度）内の工事完了を目指します。

当日は、地元農家や工事関係者など約30人が参加し、工事の無事を祈りました。



（安全祈願祭の状況）



（被災状況）

山林から棚田地帯にかけて、最大幅約90m、長さ約100mの規模で斜面崩壊が発生しました



（完成イメージ図）

（基盤整備の主な内容）

- ・農地を平均19aから33aへと区画拡大し、担い手への農地集積を促進
- ・効率的な営農によるコスト縮減、耕地利用率の向上、地域の特性を活かした高収益作物の導入

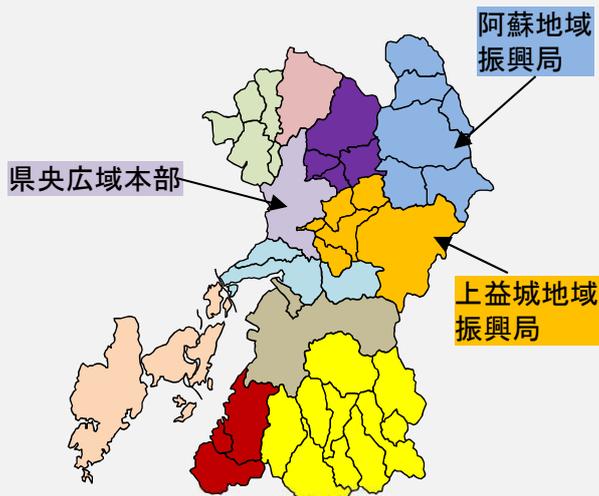
（参考）熊本県が考える「創造的復興」とは？

○熊本県では、熊本地震からの創造的復興を実現するため、「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」を策定しました。

○プランでは、「被災された方々の痛みを最小化すること」「単に元あった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指すこと」「復旧・復興を熊本の更なる発展につなげること」の3原則を基本とし、くまもとの稼げる農業の実現に向けて取り組んでいます。

○本県では、熊本市の秋津地区、阿蘇市の阿蘇谷地区、南阿蘇村の乙ヶ瀬地区の3地区について、「創造的復興」を掲げ、農地の大区画化と併せた農地集積や農地の汎用化などによる効率的な営農による農家所得の向上を目指します。

平成30年12月末現在、10名の派遣職員の皆様が本庁及び関係出先機関に勤務されています。



派遣場所	派遣人数（派遣元県名）
本庁農地整備課	1人（鹿児島県）
大切畑ダム復興事務所	2人（宮崎県）
県央広域本部	2人（長崎県、鹿児島県）
上益城地域振興局	3人（岐阜県、兵庫県、沖縄県）
阿蘇地域振興局	2人（佐賀県、大分県）
計	10人

森 勇二さん

派遣元所属：佐賀県東部農林事務所
派遣先所属：阿蘇地域振興局農地整備課災害復興班



<現在の業務内容について>

県営農地等災害復旧事業（阿蘇谷地区17工区、阿蘇中部広域農道）にかかる工事発注・工事監督・計画変更協議

<職場（仕事）環境について>

愉快的な若手職員が多く、毎日楽しませてもらってます。いつもありがとうございます！

仕事面でも課内・班内で自由に意見が出し合える環境ができており、ストレス無く日々業務が行えています。

<衣食住の環境について>

夏の阿蘇は快適で、エアコンを入れたのも数日で良いほどでした。現在、職場近くの小学校跡地（仮設住宅）から徒歩通勤しています。これから寒さが増す阿蘇の冬・・・、心配です。

数年ぶりにインフルエンザの予防接種へ行ってきました！

<今後、派遣で熊本へ来られる方へのコメント>

熊本地震から3年、まだ復旧復興が進まない地域があります。施設が被災した状況で苦労しながらの営農、作付けできない状態の農地、地元の方はあなたの力を待っておられますよ！阿蘇周辺は温泉が多く、会員（超割安）に入れば毎日楽しめて、仕事の疲れもスッキリ洗い流せます。観光地もたくさんあり休日の過ごし方に悩むことはありませんよ。（本人は休日佐賀へ帰る事が多く、熊本の熟知度低いですが・・・）

井形 晃之さん（写真中央）

派遣元所属：大分県東部振興局日出水利耕地事務所
派遣先所属：阿蘇地域振興局農地整備課災害復興班



<現在の業務内容について>

- 農業競争力強化農地整備事業第四阿蘇地区（計画変更、発注等全般）
- 県営農地等災害復旧事業（阿蘇谷地区17工区【農業用施設担当】）
- 阿蘇地域世界農業遺産プロジェクトチーム

<職場（仕事）環境について>

盆地特有の気候（とにかく冬寒い）は大分県日田市（標高80m）で経験済みではありますが、阿蘇市（標高：522.8m）とは標高の差が大きく、過去の経験が活かせないようです。

災害復旧は原則3年で、今年が最終年度。とにかく現場の積雪や凍結による工事遅延が心配です。

ちなみに執務室内にはストーブ等の暖房器具がないため、定時後全庁エアコンが切れるとすごく寒くなりますが頑張ってます。

<衣食住の環境について>

雨風しのげる住宅を準備していただいております。自炊もできる環境で気分転換できてます。昨年度は住宅の玄関が凍って開かなかったとの噂を耳にしますので、今年はそんな事態が発生しないように祈ってます。

<今後、派遣で熊本へ来られる方へのコメント>

近年、全国的に災害が多く発生していることもあり、熊本県の復旧・復興に向けた取り組みや、ここでの業務の経験は、今後の職務に生かせる場所が多くあるものと思います。平日は熊本の復旧・復興のために頑張っている、週末はいろいろ出かけて熊本を満喫するとよいと思います。魅力的な場所がたくさんあり、食べ物もおいしいです。



朝倉 隆史さん

派遣元所属: 宮崎県農村計画課
派遣先所属: 大切畑ダム復興事務所

<現在の業務内容について>

- ・ 大切畑ダム技術検討委員会準備対応等
- ・ ボーリング調査業務に関すること
- ・ 暫定水利用に関すること

<職場(仕事)環境について>

10月より新事務所に引っ越した為、通勤時間が15分から1時間に変更。10月の引っ越しに伴い職場環境については、職場内も広くなり現場にも歩いていける距離になった。

<衣食住の環境について>

家賃も安く、街にも近いことから悪い点は一つもありません。

<今後、派遣で熊本へ来られる方へのコメント>

来る前にあれしとけばよかったと思う事は特にありませんでした。熊本県の職員の皆さんはとて素晴らしい人達ばかりですので、心配することはないと思います。

湯原 秀和さん

派遣元所属: 宮崎県西諸県農林振興局
派遣先所属: 大切畑ダム復興事務所



<現在の業務内容について>

- ・ ダムの施設管理（斜樋の操作、分土工の操作）
- ・ 孔内水位計の計測
- ・ その他内業（資料作成等）

<職場(仕事)環境について>

- ・ 現場近くに事務所が建設され、現場対応がすぐにできるため都合が良い。
- ・ 職場は明るくて、とても仕事がしやすい雰囲気です。

<衣食住の環境について>

- ・ 食べ物が美味しく、また観光名所等もたくさんあるので大変満足している。
- ・ 車が多く、通勤帰宅時が大変である。

<今後、派遣で熊本へ来られる方へのコメント>

遊ぶところがたくさんあるので、事前にリサーチしておいたらいと思います。熊本県の震災復興に少しでも力添えできるよう一生懸命頑張ります。

熊本地震等の農地等災害復旧事業の進捗状況

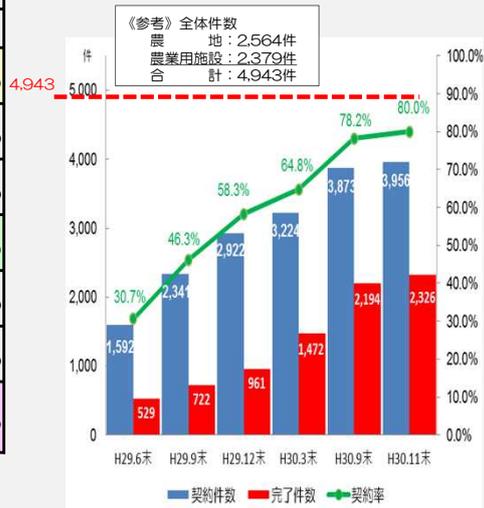
復旧進捗状況

11月末現在の件数とその割合

	復旧予定 件数	契約済み		工事完了	
		件数	契約率	件数	完了率
県営災害 計	183	175	95.6%	73	39.9%
農地	66	66	100.0%	0	0.0%
農業用施設	117	109	93.2%	73	62.4%
団体営災害 計	4,760	3,781	79.4%	2,253	47.3%
農地	2,498	1,954	78.2%	1,154	46.2%
農業用施設	2,262	1,827	80.8%	1,099	48.6%
県営+団体営 計	4,943	3,956	80.0%	2,326	47.1%

災害復旧工事完了件数及び契約件数の推移

11月末現在の件数（県営+団体営）



契約済み率、工事完了率ともに伸びてきているものの、今後も必要に応じて、不調・不発対策などを講じ、復旧・復興工事の更なる加速化に努めます。

10月24日（水曜日）

平成30年度熊本地震復旧・復興に係る報告会を開催

熊本地震からの復旧・復興については、被災された方々の「すまい」の再建や被災企業の事業再建など県民生活に深く関わる「重点10項目」を中心に、創造的復興に向けた取組みを加速させています。

特に、農業分野では、農地及び営農施設の復旧による営農再開100%完了（平成31年目標）を掲げ、農家の皆様とともに県の総力を上げ取り組んでいます。

今回、平成30年度農業農村工学会九州沖縄支部大会に先立ち、「平成30年度熊本地震復旧・復興に係る報告会」を10月24日に開催しました。

報告会では、当県から復旧・復興状況の説明後に、意見交換会を開催しました。

当日は、派遣応援職員（県、土地改良事業団体連合会）、熊本県土地改良事業団体連合会及び熊本県から57名の出席があり、盛会のうちに終わることができました。



（左上）集合写真
（左中央）派遣応援職員からのご挨拶
（左下）報告会及び意見交換会の開催状況
（右上）西森県農村振興局長挨拶
（右中央）小柳県土地改良事業団体連合会
常務理事挨拶
（右下）復旧・復興状況の説明

11月30日（金曜日）

「地震からの復興に向けていざ出航！」

ワンピースの主人公ルフィの銅像が熊本県庁に登場

熊本市出身の漫画家、尾田栄一郎さんの大ヒット作「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公ルフィの等身大立像が熊本県庁のプロムナードに完成し、11月30日に除幕式を開催しました。

立像の設置は、今年4月の尾田さんへの県民栄誉賞の受賞がきっかけで実現しました。

立像はブロンズ像で高さ174cm、設置費用は尾田さんが地震後に行った県への寄付で賄いました。除幕式には、蒲島知事や「ワンピース」を連載する週刊少年ジャンプの中野編集長、くまモン、尾田さんの両親が出席しました。

また、除幕式では、尾田さんの母校・東海大学付属熊本星翔高等学校吹奏楽部がアニメの主題歌を演奏して盛り上げ、ルフィのトレードマークである麦わら帽子を身に着けたファンなど約1,500人が参加しました。

今後、ルフィが率いる海賊団「麦わらの一味」の8つのキャラクターの像も県内に設置します。

熊本県にお越しの際には、熊本県庁プロムナードでルフィの等身大のブロンズ像をご覧ください！



（上段左）（下段）

熊本県庁プロムナードにお目見えしたルフィの等身大の銅像

（上段右）

作者尾田栄一郎さんの手形（ルフィの足下）

